

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県央会場>

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 児童期の一般的な特徴および発達過程と発達領域の基礎を学び、発達理解のための継続的な学習の必要性について理解できた。子どもの生活そのものを理解することが重要であり、子どもたちがどのような家庭、学校、学級、地域社会で過ごしているのかという視点をもつことが、発達理解や支援には不可欠である。子どもの豊かな放課後の生活や発達を支え、支援していくために、私たちには継続的な学習が求められていることを学んだ。
- ◆ 低学年では大人に見守られることで努力したり、課題の達成ができたりすること、中学年では大人に頼らずに活動するようになること、高学年では日常生活や学習において、自主的に計画を立てて行えるようになることなど、それぞれの特徴を学ぶことができた。今後、研修で学んだことを活かし、それぞれの発達段階を踏まえ子どもたち一人ひとりがのびのびと元気に楽しく安全に過ごせるようあたたかく見守り支援していきたい。
- ◆ 児童期の生活と発達について学び、子どもたちが日々の経験を通して社会性や自分らしさを育てていることを改めて実感した。行動の背景には、その子なりの気持ちや不安があることを意識し、丁寧に寄り添う姿勢が大切だと感じた。これからも一人ひとりが安心して過ごし、自分のペースで挑戦したり失敗したりしながら成長できる環境作りを心掛けていきたいと思う。
- ◆ 児童期の発達過程と発達領域について、勤勉性と劣等感を経験して有能感を獲得できるということが分かった。同じ児童期でも仲間や友達との関わり方、道徳性、記憶等も低学年と高学年では違うので配慮が必要だと思った。ヤングケアラーを題材にした短編映画を見て、子どもたちがどのような家庭、学校、地域社会で過ごしているのか視点をもつことの重要性を知った。支援員の成長が子どもの発達につながることから自己研鑽に励みたい。
- ◆ 児童期は時期によって発達の過程や特性も違い、子ども一人ひとりによっても様々であると知ることができた。その中で、子どもの発達を理解し支援していくためには、どのような家庭や学校、地域社会で過ごしているのかを知ること重要だと学ぶことができた。子どもたちの豊かな生活や発達を支援していくためには、自分も子どもたちに学び、日々の関わりを振り返るとともに、研修などを通して質を高めていくことが大切だと感じた。